

そばは、やはりおろしそば。田舎風の太目で風味がいい。そして醤油力ツ井は、「飯の上にたっぷりキヤベツが盛られ、ドカンとトンカツがのる。さらに大根おろしと大葉とネギのトッピング。そして、食べる直前に温かい醤油ダレをかけて食す。サクッとした衣に甘辛い醤油ダレが絡んでうまい!あつさりと食べられるので、女性やお年寄りにも好評なのとか。しかし、セットなのでボリューム満点だ。

### 大野城に登る

腹を満たして向かったのは、大野のシンボル、越前大野城。標高約二五〇メートルの亀山山頂にある天守閣をめざす。

全体的には緩やかな坂道で、と



威風堂々とそびえる城。城内には歴代藩主の遺品も展示



天守閣からは大野市街を一望

### 歴史を語る帆船

城を下り、向かったのは大野市歴史博物館。縄文時代から近代までの歴史資料を展示している。



展示された「大野丸」の模型

ころどころ階段になつていて。ケヤキ、オオモミジ、クヌギ、コブシなど沿道にはさまざまなかな木が生い茂り、森林浴気分も味わえる。

急な階段を登りきると木の間から城の姿が垣間見えてきた。苔むした石垣が続く。大野城の石垣は野面積みと呼ばれる自然石を加工せずに積み上げた十六世紀後半の古い形式によるものという。

隙間に詰め石があり、外観は粗雑に見えるが水はけが良いため、実際に強固な造りとなるそつだ。

歩きはじめて約二十分。天守閣にたどりついた。大野城は、金森長近が亀山を利用して築いた梯郭式の平山城である。山頂を削って平坦にして本丸をつくり、その東側に二の丸と三の丸。さらに南北に人工の外堀をめぐらして守りを固めたという。

天守閣からの眺めはさすがに良好。城下はもちろん、四方を良く見晴らすことができる。天空の城といわれるのもうなづける。

なお、十一月一日から三月三十一日は休館となる。

とくに白山信仰の資料が充実している。奥越の歴史文化について認識を深める展示が多いのが特徴となっている。

また、大野藩政の資料も多い。とくに第一展示室で目にの帆船の模型は圧巻だ。これは、大野藩土井家七代目藩主利忠らによる藩政立直しについて解説した展示のひとつ。行き詰まつた藩政を開拓を推進した際に建造したのが洋式帆船「大野丸」である。実際の大野丸は長さ二十三メートル、幅七メートル、一本マストの帆船で、敦賀湾を拠点に北方交易や警備兵の運送に従事したという。往時の大野藩の力を感じさせる展示である。



自家栽培のぶどう畠



希少な山ぶどうのワインは上質な味わい

また、工場見学、試飲も行つてゐる

のでありがたい。

早速、家人は品定め。山ぶどうのスパークリングをチョイスした。家でゆっくり味わつたが、酸味がほどよく、さっぱりと味わえた。

文／フジワラタケユキ

加水なし。泉質は女性の肌にやさしいナトリウム・カルシウム硫酸塩泉。飲泉の効能もあるという。森林浴と温泉浴、ダブルの癒しが味わえるうれしい温泉であった。



田や畠にこんな岩の塊が点在

帰路はあわてず、のんびりと。そう考えて、一五八号から少し入った美山森林温泉「みらくる亭」に立ち寄ることにした。

全面ガラス張りの大浴場は、施設のいちばん高いところにあり、垣根の必要がないのでまさに目の前が森。地下一〇〇メートルから湧き出る自家源泉のお湯は一切